

空母を持って自衛隊は何をするのか
朝鮮半島危機後の安全保障を再考する

兵頭二十八

Nishihachi Hyodo

空母を持って 自衛隊は 何をするのか

朝鮮半島危機後の
安全保障を再考する



「F-35B」搭載の 「拡大しらね」型護衛艦を 航空巡洋艦として活用せよ!

近未来の日本を襲う危機は中国・北朝鮮からだけではない。AI(人工知能)
や異常気象を含む全方位からのリスクに対応できる自衛隊のあり方を問う。

徳間書店

発売日: 2018年6月22日

出版: 徳間書店

著者: 兵頭二十八

ページ: 195

PDF

自衛隊がついに空母を保有する方針を打ち出した。『いずも』型護衛艦を改造すれば垂直離
着陸可能な「F-

35B」を搭載する空母はすぐにも実現できる。しかし、『いずも』には弱点が……。『拡大しらね』型護衛艦を軽空母として活用すれば、より効果的に南シナ海などにおける中共の軍事活動を封じることが可能となる。朝鮮半島危機以後の安全保障やAI技術の動向など激変する環境を先取りし、日本がサバイバルできる自衛隊の装備とは何かを提言する。

<https://rapidgator.net/file/dcc7dbcef45eae7c0cedeb35d87df391/jdvyb8EBI.pdf.rar.html>